

2019年度愛知県がんセンター公開講座(第3回)のご案内

「令和元年 がんゲノム医療と免疫療法の最前線」

= 令和元年9月7日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「遺伝子パネル検査でがんがどこまで分かるの？」

がんは遺伝子の異常で起きる病気です。がんでは多くの遺伝子に異常が起きますが、その中でも特にがんにとって大事な異常が知られていて、その異常を標的とした薬剤が開発されています。遺伝子パネル検査は、がんにとって重要な遺伝子を 100-400 種類同時に検査することができる検査法です。遺伝子パネル検査は本年 6 月に保険適用となりましたが、検査により必ずしも異常が発見されないことや、異常が発見されても治療に結び付かないことがあるなど、様々な限界もあります。本公開講座では遺伝子パネル検査の現状についてお話させていただきます。

がん標的治療トランスレーショナルリサーチ分野 分野長 衣斐 寛倫

< 講師からのメッセージ >

「免疫チェックポイント阻害薬の現状と免疫研究の展望」

多くのがん患者さんでは、がんに対する免疫応答が様々なメカニズムで抑制されています(ブレーキがかかっています)。昨年のノーベル賞受賞で話題となった「免疫チェックポイント阻害剤」は、そのブレーキを外して免疫応答を再活性化し抗腫瘍効果を発揮する薬です。ただ、この薬も一部のがん患者さんにしか効果が見られないことが明らかになってきました。本講演では、免疫チェックポイント阻害剤治療の現状と、さらに治療効果を引き上げるための併用治療、そして今後の免疫研究の展望についてお話しします。

腫瘍免疫制御トランスレーショナルリサーチ分野 分野長 松下 博和

< 講師からのメッセージ >

「がんセンターが取り組む新たな治療の開発-臨床の現場から-」

2019年6月にがんゲノムプロファイリング検査が保険適用となり、今後多くのがん患者さんが検査を受け、遺伝子異常を解析し、正確な診断や抗がん剤の選定など治療方針決定に有用な情報が得られることが期待されます。遺伝子異常に合わせた分子標的薬や免疫療法の開発は現在製薬企業や研究者達が積極的に進めておりますが、まだ発展の途上と言えます。

本講演では、がんセンターが取り組んでいる患者さんの遺伝子異常に合わせた治療開発の現状と、将来の展望について説明を行います。

薬物療法部 医長 坂東 英明

< 講師からのメッセージ >

「AI が切り開くがん治療」

近年の技術の進歩により、医療の現場ではこれまで取得することの出来なかったような種類の情報を大量に測ることができるようになってきました。これからは、それらの医療ビッグデータから、様々なAI技術および機械学習技術を活用して、有用な情報を抽出し医療へ役立てていくことが重要です。

特にがんの分野では、ゲノムの情報を個人に最適な治療法の選択や診断に役立てる「がんゲノム医療」が実現されつつあります。その現場においても、AI技術が活用されています。

今回は、それらの医療におけるAI技術の現在の状況と、将来の展望についてお話しします。

システム解析学分野 分野長 山口 類